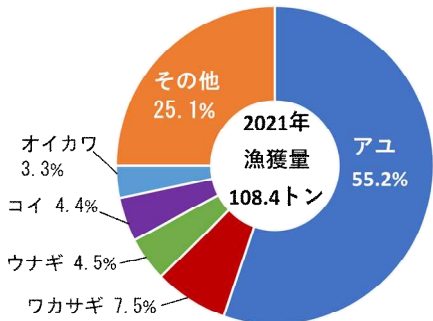


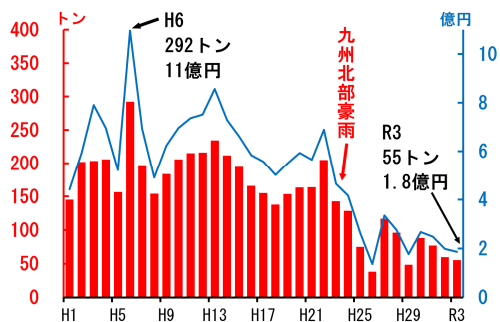
主要河川におけるアユ資源の有効利用手法の開発

【研究のポイント】

アユは、本県内水面漁獲量の50%以上を占める重要な魚種の1つです。平成元年以降、本県のアユ漁獲量は平成6年の292トンが最も多く、平成24年の九州北部豪雨以降減少傾向にあり、令和3年は55トンでした（平成6年の82%減）。
河川漁協ではアユの放流や産卵場造成等に取り組んでいますが、気候や河川環境の変動によりアユの生息状況が変化中、アユの漁獲量は回復していません。このため、アユ資源を維持増大させる効果的な増殖手法の開発が強く求められています。



本県内水面漁獲量の割合

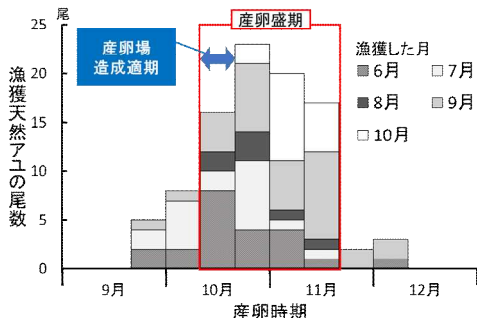


本県アユ漁獲量・金額の推移

調査を基に、主要河川漁協に提案したアユ資源の維持増大策（大分川水系の事例）

①.アユの産卵時期

「いつ産卵場を造成すればよいか？」
⇒産卵盛期を推定！



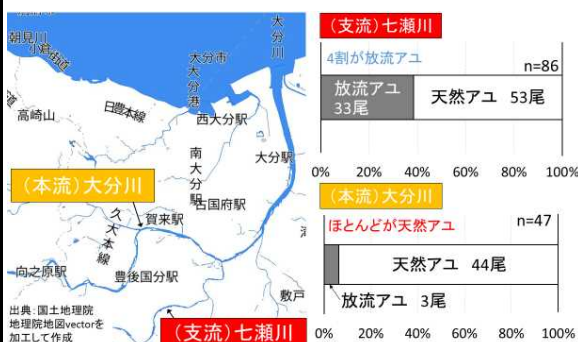
②.アユの産卵場

「どこで産卵親魚を保護すればよいか？」
⇒産卵場を特定！



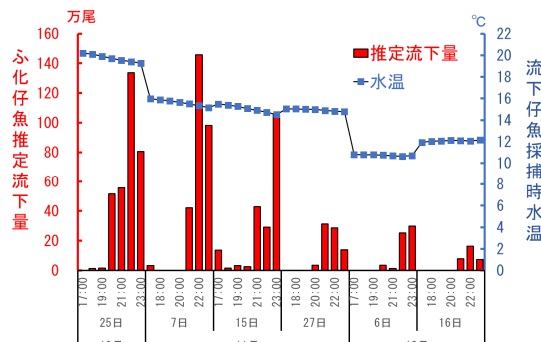
③.漁獲アユの由来判別

「どこで種苗放流すればよいか？」
⇒放流アユの漁獲が多い地点を抽出！



④.アユの流下状況

「アユのふ化状況を知りたい！」
⇒アユの流下量と水温を把握！



【研究の成果】

【関係者の声】



大分川漁業協同組合 代表理事組合長 飯倉 速美 氏

大分川は天然アユが毎年遡上しており、漁獲に大きく貢献している。しかし、組合員からは天然アユが減っているという声を聞く。アユを増やすために、今回このような研究結果を出して頂いたのは非常にありがたい。この結果を基に川に石を入れる等して、アユの住みかづくりに努め、多くの魚が生息する魅力ある川をめざしたい。

【連絡先】

担当： 農林水産研究指導センター 水産研究部 北部水産グループ
 養殖環境チーム
 TEL： 0978-22-2405
 住所： 大分県豊後高田市呉崎3386番地